

【 令和元年度 帯広市森林整備計画実行管理推進チーム会議 会議要旨 】

日時 令和元年9月5日(木) 9:30 ~ 12:00

場所 帯広市役所 8階 教育委員会室

出席委員 久保 チーム長, 山下 副チーム長, 秋葉 委員, 岩淵 委員, 大上野 委員,
原田 委員, 新野 委員, 五十嵐 委員, 春日 委員, 岡崎 委員, 荒川 委員

会議次第

1 開会

久保 チーム長 より

2 挨拶

久保 チーム長 より

3 議事

久保 チーム長 が議長として進行

<議事内容>

(1) 帯広市の民有林の現状について

資料① 帯広市の森林の概況 について事務局から説明

<大上野委員>適切な経営管理が行われていないおそれのある森林について、森林組合の方では過去に意向調査をやったことはあるか伺いたい。

<五十嵐委員>初めて森林経営計画を作成することになった時にグラフ赤部分の所有者にも郵便で連絡は試みた。大半がそのまま連絡がないか、住所がわからない方もいた。

<司会>いつ頃のお話か。

<事務局>森林経営計画が始まる前であれば、6~7年くらい前になる。

<大上野委員>そういう状況であれば、今回の意向調査をやっていくのも大変だとは思いますが。

<事務局>林地台帳作成時に登記簿上の地番との重ねをある程度は確認しており、登記簿上の所有者までは追いかけている。中には相続の手続きが終わっていないところもある。その部分については、固定資産課税台帳の情報を確認する予定。市外の住所の方だと現在の所有者までたどり着かない場合も考えられる。ただ、そういった方は多くない印象。多くは、近くで畑を耕作している方で、大半は市内に住所がある方だった。

<大上野委員>180人くらいだったか。

<原田委員>180人とはグラフの赤の部分か。

<事務局>グラフの赤の部分。

<大上野委員>現況の確認はこれからか。

<事務局>航空写真での確認はこれから。現況によっては今回の意向調査から外して別の手当てを考えなければいけないかも知れない。

<大上野委員>この部分を意向調査していかなければいけないのは理解できる。組合としてはどう考えているのか？

<五十嵐委員>意向調査の結果に沿って、再度、アプローチを進めていきたい。

<原田委員>左のグラフの赤の箇所と青の箇所について、今後、市として意向調査を進めていくべき対象と考えているのか。

<事務局>グラフの赤の部分は、これまでほとんどおつきあいのなかった方々なので、ここを対象と考えている。青はすでに経営計画に入っていて、森林組合で把握しているので、これから場所ごとに組合と一緒に精査したい。

<原田委員>グラフの赤の部分を意向調査していくということか？

<司会>そのように考えている。グラフの青の部分は今後、新たに施業を検討していただくように働きかけていきたいと考えている。青の部分について、森林組合はどのように把握しているのか。

<五十嵐委員>約350haの中で3分の1は森林所有者と間伐・植え替えの計画について話をしている。残りの3分の2の方は徐々に。「そろそろ間伐やりませんか。」というアプローチから始めて進めていこうと考えている。

<大上野委員>3分の1の計画の話がついている方々の進捗について伺いたい。やりたくても進まない理由は何か。公共事業予算(補助金)が足りなかったのか、人手や体制の問題なのか。

<五十嵐委員>どちらも当てはまる。あとは季節的なこと。9月から間伐を始めていくが、山では早ければ11月初旬には雪が降り始め、間伐には入れなくなる。皆伐であればなおのこと積雪期は厳しい。その天気と施業してくれる人と予算、3つとも関係がある。

<司会>今も補助金をもらっているが、なかなか配分が少ない。森林環境譲与税を使って増やしていきたい。予算の次には人手の問題も出てくるので、それも考えていきたい。他にはあるか？

<五十嵐委員>市の施業状況量について、今後の間伐量はどれくらいの見込みか。

<事務局>毎年30~40haくらい間伐している。カラマツはおおむね最終間伐まできている。今後は山岳地のアカエゾマツ・トドマツを保育を含めて間伐を進めていく。

<五十嵐委員>私有林の施業を行っているのは40%くらいだが、市は80%くらいか。

＜事務局＞カラマツはそれくらい。アカエゾマツ・トドマツで施業が必要な場所は 300ha くらいあるはず。その部分は今後、増えていく。間伐の事業量としては、今後もほぼ同じ面積の施業を実施していきたい。

＜大上野委員＞H25～H29 で公有林の間伐 40ha、保育間伐 12ha、大体 50ha くらいのペースで施業されているよう。

＜事務局＞ここ何年かは補助金が足りず 40ha 程度に留まっている。

＜大上野委員＞私の方で以前に調べたら、市有林の人工林で除伐・間伐が必要となる林齢の森林は 760ha、うち未施業地が 260ha あった。

＜事務局＞市有林では、アカエゾマツ・トドマツは生育が思わしくないなどの状況があり施業を先送りしている箇所がある。カラマツは若齢の一部を除き概ね最終間伐まで実施。保安林が多いため、主伐については、伐れる条件が整うのを待っている。

＜大上野委員＞カラマツについては収穫を進めたいということか。

＜事務局＞収穫して再生林を進めていく方向で考えている。

＜原田委員＞グラフの赤の部分は市内のどこら辺りにあるのか。

＜事務局＞（地図をもって説明）

＜原田委員＞184 人というのは点在しているのか。平野部にもあるのか。

＜事務局＞平野部にも点々と存在している。平野部の多くは隣接の畑を所有する農家さんが所有。畑の縁の斜面林。畑に不向きな土地に残っているものが多い。畑の中に 1 区画まとまって森林という場所も一部ある。

＜原田委員＞人工林が畑の縁にあるのか。

＜事務局＞この地図でマーキングしている場所は全てグラフの赤の部分の森林。中には、人工林の中にヤチダモやハルニシの実生が成長してきているような場所もあるが、森林調査簿上は人工林。

＜新野委員＞グラフの赤い部分の林況の確認はしていないのか。天然林化が進んでいっている可能性もあるということか。

＜原田委員＞現地調査は、今後、回答が来てからの話だと思う。本当に整備が必要かどうかは今後、把握していかないとならない。

＜事務局＞帯広市内で森林経営計画が作成されていない森林所有者は、所有面積が小さい方が多く、植えたは良いけれど関心を持ってこなかったという人が多い印象。天然林として成林させていくにしても、何らかの手入れが必要かどうか一度は見る必要が出てくると考えている。

森林組合の理事の方々からは、30 年も無間伐だった森林は間伐を入れたとしても森林として維持していくことは難しいという話を伺った。上手く天然林化できているところは良いが、そうでなければ、主伐して再生林するなど、森林を維持できるような手当てを考えないとしないと考えている。

＜原田委員＞いろいろな話をしていかなければならない上では、まずは、意向調査を進めていかなければならないと思う。

＜事務局＞帯広市では、まずは一度、話を伺うきっかけというつもりで意向調査を実施したいと考えている。

＜司会＞意向調査については後で議論したい。

（２）「森林環境譲与税の活用に向けた基本方針」について

資料② 森林環境譲与税の趣旨および活用に向けた基本方針の策定

資料③ 北海道からの森林環境譲与税の活用方針の提案

資料④ 森林環境譲与税の活用に向けた基本方針（案） について事務局から説明

＜司会＞基本的には先ほど説明したとおり、補助の配分が毎年 100%ではないので、不足分に森林環境譲与税を使いたい。お金があっても人手がないとできないので、その点も今後、手当を検討していく必要がある。

＜秋葉委員＞民有林について、間伐や主伐はどのような方法でやっているのか。

＜事務局＞市有林については、定性間伐。単層林が多いので、主伐は小班単位で皆伐。おそらく私有林も同じ。

＜五十嵐委員＞そのとおり。

＜秋葉委員＞低コストで出来るのがいちばん良いとなると、搬出間伐は列状という手法もある。

＜事務局＞初回の搬出間伐の時は一部に列状を併用している。

＜秋葉委員＞主伐は3分割して伐ることで収穫を平準化して回していける。回さないと何十年も収入がないことになる。全部伐って植えるよりは、部分ごとに伐採する方が良いのではないか。

＜事務局＞市有林の話をする、保安林という制限がかかっているのでなかなか大面積での施業が難しく、（国有林のような）列状での収穫は出来ない。

＜秋葉委員＞土砂流出防備保安林の皆伐限度は5ha だったか。

＜事務局＞私有林は、大面積を持っている方が少ない。

＜五十嵐委員＞2～3ha もいるが、1ha 未満がほとんど。面積が小さいので3分割の伐採は難しい。

また、木材価格の変動もある。所有者はいちばん価格が良い時に伐りたいので。規模が大きい所有者は分割するのも良いかも知れない。

＜秋葉委員＞より低コストで出来れば良いというところで話をさせていただいた。私有林は点在しているようなので、そこは難しいかもしれないが、固まっている場所ではできない話ではないと思う。ひとつの団地のような考え方ができれば。

<事務局>森林組合の方で、(経営計画を作成している Aさんと Bさんの間に経営計画未作成の Cさんがいるというような)集約化した方が良い場所を把握しているか。

<五十嵐委員>そういう場所は少ないと思う。集約化のための働きかけも試みているが、山に興味がない人が多く上手くいっていない。親はやっていたけど自分は関心がないという人もいる。山に興味がない人が多い。事業費の問題もある。小さい面積の方は「そんなにかかるならやらない。」という人もいる。

<事務局>今後は山に興味がないという森林所有者への働きかけと施業の際の何らかの手当ても森林環境譲与税で手当てしないと進まないかも知れないが、既に森林経営計画を作成している方々との公平性をどのように取っていくかが悩ましい。

<原田委員>森林環境譲与税には、国民全体で森林を支えて整備を進めることが求められている。まさしく今のような状況であれば働きかけを強めて、「森林環境譲与税を活用できますから。」と言って取り込んでいく方向に進めていかなければならない。

<五十嵐委員>以前、北海道と帯広市と一緒に森林経営計画の作成を働きかけたことがあったが、3人ともダメだった。北海道と帯広市から事業の説明をしてもらっても、森林経営計画の説明をしても成果は上がっていない。訪問して説明しても理解が得られなかった。

<原田委員>進め方を考えていかなければいけない。同じことをやっても進まないの。

<新野委員>反応が悪かった理由は何処にあったのか。

<五十嵐委員>理由は聞けていないが、よろしければという話し方をしたが、その後の音沙汰なしだったり、「今、内部で検討中だから。」と言われたきりという感じ。

<事務局>以前に帯広市も同行したケースでは、担当者の理解は得られたが、社長までのゴーサインが出なかった。企業が森林所有者の場合は、森林経営管理法が制定され森林所有者の責務が明確になったことを説明し、「責務を果たしていただくため経営計画に入っていたきたい。」といった働きかけで再チャレンジをできないかと考えている。

<新野委員>反応が悪かった理由を尋ねたのは、補助金が足りないということがあってのことかと思ったのだが、そうではないということのようなので、まずは意向調査を帯広市で進めていただければと思う。

<司会>確かにお金の面もあるのかと思う。アンケートしてみて今後の支援の仕方について皆さんに相談したい。他の町村はどういう進捗状況なのか。

<大上野委員>先日、浦幌町のチーム会議があった。浦幌町の場合は、森林整備の推進、人材育成・担い手確保、普及啓発の他に、木材利用の推進が入っている。具体的な事業についてはこれからと伺った。まずは基本方針を立ててからということだった。

<司会>当面5年間なので、帯広市の場合は木材利用の推進までは難しいと考えている。5年ごとに計画を作っていくことになる中で今後考えていきたい。岡崎委員、木材の利用の立場から意見はあるか。

<岡崎委員>特に今日は意見を持ち合わせていないが、基本方針のイメージがわかっていない。雛形はあるのか。

＜事務局＞北海道からは川上から川下まで例示されている。帯広市としては、まずは川上の体制を整えて出材量が増えていけば、次は川中、川下の対策を考えていきたい。木材産業の立場で市の考えに足りない点などをお聞かせ願いたい。

＜岡崎委員＞今のところは特にない。所有者に説明するにあたっては、メリッ的なものを盛り込めればまた違うと思う。

＜事務局＞今の計画に入っている所有者も、資金計画をどうしようかと二の足を踏むこともある。

＜岡崎委員＞私も森林経営計画を作成しているかどうかで差をつけるのは良くないと考えてる。

＜荒川委員＞担い手確保はどう考えていくのか。外国から受け入れるとか、養成所を設けるとか。

＜事務局＞係の中で考えていることとしては、今の公共造林補助と同じ枠組みを森林環境譲与税でも用意することで、毎年の施業量の見通しが立つようにすること。もうひとつは、国の公共造林事業の申請〆切は11月半ばなので、冬は事業ができない。市で用意する事業は補助申請期間を2月くらいまで伸ばして、11月頃から2月まで施業を続けていただく。そうすると11月に雇用が切れてしまうということがないように出来るのではないかと考えている。雪が深い場所は早い時期に、平野部は冬に施業するということのように使い分けていただくことで、雇用の安定を支援させていただければという考え。

他の町は新規就業者の道具の補助を行っていると聞いているので、そういう部分が帯広市でも必要ということであればご意見をいただければと思う。

＜新野委員＞道具の補助の話も聞くが、就業者が違う町の仕事に従事するとなると補助が町内の森林整備の促進に繋がらない可能性もある。帯広市の人も違う町にいて働くというケースもあるのではないか。

＜事務局＞登録制度に登録されている事業者は8社あるが、そのうちいくつかは国有林の仕事をしている会社で、帯広市内の仕事もあるだろうが、よその町村の森林に入っているところもあるだろう。その辺の線引きの議論は必要になると思う。

＜司会＞浦幌町、池田町以外はどのような検討状況か。

＜大上野委員＞十勝管内では意向調査が大半。今年度で森林整備に使うのは池田町ぐらいか。4月時点の情報では、意向調査が大半で、19市町村のうち15市町村。まずは基金積み立て、具体的な用途の検討はこれからが多い。

＜事務局＞池田町以外の多くでは来年度に向けて準備する予定と伺っている。足寄町は国の補助対象とならない間伐に充てると聞いた。

＜司会＞森林環境譲与税を使ってやることはたくさんあるが、ネックとなるのが市町村の担当職員が足りないこと。広域連携でやれることはあるのか。

＜大上野委員＞管内で広域連携の話は聞いていない。

＜原田委員＞広域連携が話題になるのは初めてだ。市町村ごとに譲与額も課題も違うので難しいと思うが。

＜新野委員＞広域連携は自治体をひとつ作るくらいの手間がかかる。現実的ではないのではないか。

＜大上野委員＞木材の安定供給の部分でいえば、十勝管内はカラマツ不足が続いている。そういう観点からの森林環境譲与税の活用は意見は今のところはないのか。

＜事務局＞岡崎委員、いかがか。

＜岡崎委員＞森林環境譲与税を財源としてという話では、具体的な話は聞いていない。

＜事務局＞間伐だけでなく、その後に主伐して植えていただくというところにつなげるために手当して、「私有林等事業」で事業量を増やしていくことで木材の安定供給への手当てとしていければと思う。

＜大上野委員＞それぞれの立場があるだろうから、課題の全ての把握は難しいだろうけれど、方針をホームページで公表となると、川下の事業者に変に誤解を与えないような表現にすることは必要と思う。今後、意見を伺いながら柔軟に対応していくというような表現など。

＜岡崎委員＞方針の変更は5年の途中でもできるのか。

＜岩淵委員＞問題ない。

＜岡崎委員＞（製材工場では）丸太が足りないという話もあるので、計画どおり施業を実施して材を安定的に供給することが大事。

＜事務局＞森林経営計画自体も一昨年に作成したばかりなので、市としては伐採量を急激に増やすようなことは考えていない。市有林は適切な施業を実施し公益的な機能を十分に発揮する山づくりを第一に考え、当面はコンスタントに進めたい。今後、私有林の整備が進めば、地域としての出材量は自ずと増えていくと思う。そこでの需要と供給のバランスを見ながら、次期の5年間ではこれまでよりも伐採量を増やしていく計画にすることも検討したい。

＜岡崎委員＞私有林も含めて、森林環境譲与税を使うために事業量を増やすのではなく計画をしっかり持つことが重要。

＜司会＞次の議題に移りたい。意向調査について、市の方で案を作ったので説明する。

（3）森林経営管理法に基づく意向調査について

資料⑤意向調査（案） について事務局から説明

＜荒川委員＞硬い書きの方が良いと思う。

＜原田委員＞国の基本方針が変わったということを強調した方が良いと思うので「国において制定された」といった文言を入れ、硬い書きの方が良い。アンケート自体は柔らかい印象を受けた。

<司会>他の町村のアンケートはどのような内容か。

<大上野委員>具体的に出来上がっているアンケートを見たのは帯広市が初めて。入口の部分になるので、あまり項目が多いと答えてもらえないと思う。まずは（森林経営計画作成の）意向を確認できれば良いと思う。

<事務局>北海道から示されている雛型どおりではない部分もある。積極的に経営管理権を設定することは考えていないので、経営計画に入っていただくために是非ご相談下さいということを一応お伝えしたいと考えている。

<原田委員>問2の④の3年というのは何か意味があるのか。

<事務局>3年は雛型のとおり。違う聞き方はあるか。

<原田委員>3年を覚えているかどうかとかはあるかも知れない。

<事務局>正確に3年である必要はないと考えている。

<原田委員>意向調査は来年の2月に実施の予定か。

<事務局>12月に補正予算を計上し、1月の終わり頃に発送、年度内に集約できればと考えている。

<原田委員>集約した結果、令和2年度にすぐに実施予定か。

<事務局>内部の合意形成もこれからだが、令和2年度は、既に森林経営計画を作成している方も活用できる単独補助事業をまずは創設したいと考えている。意向調査の分析結果は令和3年度以降に反映したい。

<原田委員>整備の意思があるとの回答があれば、令和2年度に経営計画に入れ、補助事業で予算が付かなかったものについては森林環境譲与税を活用するということが。

<事務局>施業の実施体制のこともあるので、来年度中に経営計画作成、令和3年度以降に実施になるのではないか。

<春日委員>予算について、今年度は意向調査を行い、余ったら基金へ積み立てということか。予算の用途についてはこの会議で検討することになるということか。今の公共事業とのバランスを考えた上で、施業が遅れている理由を深掘りした後で、予算を組んでいくという考えかと思っていたが、来年度から森林整備への補助を始めるのか。

<司会>基本方針は5年間で立てる。

<春日委員>基本方針の中には予算の枠組みは入れないのか。予算の用途についてはこの会議の議題とはならないのか。

<司会>会議を開催するか書面でお知らせすることになるかは置いて、皆さんには予算の用途もお示ししていきたい。

<事務局>森林環境譲与税の用途については、これまで北海道を經由して林野庁からの説明を受けていたが、今年度に入ってからこれまでの説明では活用可能と言われていた用途に使えないという話が出てきたりもしている。総務省から9月中には取り扱いについて考え方が示されると伺っている。森林整備の枠組みは作成したいと考えているが、後からできないとなっては困るので内部での議論もまだ詰められていないため、今日はお示しできな

い状況。

<大上野委員>意向調査について、所有者に分かりやすいようなチラシか何かは検討しているか。林野庁ではそういうものは作成していないか。

<秋葉委員>パンフレットのようなものは作成していない。

<大上野委員>簡単なものでも何かあればわかりやすいと思った。何か良いのがあれば、探しておきたい。

<司会>他にアンケートについてご意見はあるか。

(特になし)

<司会>全体を通して何かあるか。

(特になし)

<司会>以上で終了とする。